

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-8

～佐賀県・福岡県・山口県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。

なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔佐賀県〕 2020年5月10日～11日

聖火リレーコースは5月10日 太良市～唐津市、11日 基山町～佐賀市で吉野ヶ里町も通過します。

寅次郎、2005年(平成17年)3月「第11回吉野ヶ里菜の花マーチ」に参加して佐賀県を訪れています。

前日は唐津・伊万里・有田の観光ツアーで虹の松原、唐津城天守閣からの玄海灘の眺望、鍋島藩御用達窯が置かれた秘窯の郷伊万里大川内山の散策、有田では有田陶磁美術館での高価な焼き物が目の保養になり、橋名板・家の表札・トイレの表示(殿、姫)まで陶磁器製で驚きました。

大会1日目はふるさとロマンコース。JRで佐賀駅から神埼駅に行き、大会シャトルバスで行く吉野ヶ里歴史公園がスタート・ゴールです。公園が近づくと吉野ヶ里遺跡の櫓が見えて来ます。毎年秋に国際バルーンフェスタが開催される佐賀平野の中を歩くと、小さいころ読んだ「次郎物語」の作者、下村湖人の生家が最初のチェックポイント。大きく真っ赤な佐賀苺とあめ湯(生姜湯)のサービス。関東から参加者の「次郎物語ならばサルがいればよいのに」には大笑い。(当時、三代目反省ザルの治郎襲名までの物語がTVで放映されていました)下村先生も地下で苦笑されたことでしょう。菜の花満開の城原川沿いを歩いてゴールです。ゴール後は平成元年に発見され国の特別史跡に指定の吉野ヶ里遺跡を見学。二千年前の弥生式国内最大の環壕集落跡の広大な光景に目を見張りました。まだ一部で復元整備中です。



物見やぐらに上ると弥生人達の声が聞こえて来るようです。ホテルで汗を流してから佐賀城下のひなまつりの見学へ。鍋島家伝来の豪華な雛人形、旧長崎街道沿いに点在する武家屋敷や商家の歴史的建物を見学しました。総理大臣で早稲田大学創設者の大隈重信旧住宅もありました。楠(県木・県花)が至る所に茂り、掘割が走る市内は芸人「はなわ」が歌う佐賀のイメージとはかけ離れていました。

2日目はせせらぎロマンコースで城原川の上流沿いを上り、農業の神様「仁比山神社」から清流水車の里 遊学館へ。水車の電力で動く県無形民俗文化財「からくり人形 御田舞」を見学。山間部の森林レクリエーション「トムソーヤの森」の展望台から佐賀平野を見下ろした後、山を下り、麦畑の中を歩いている頃が震度6の福岡県沖地震の発生時刻。でも気付かず、道で会った人から地震の発生を知らされました。山の中を歩いていた人からは岩が大きく揺れたとか、舗装道路を歩いていた人からは後ろからダンプが2台来るような音がしたとか、カーブミラーが大きく揺れたとか、ゴール会場ではテントから飛び出したとか。ウォーキング例会での地震発生時の危機管理の必要性を痛感です。

JRは全面ストップ、タクシー相乗りでホテルに戻りました。ツアー仲間でホテルまで戻れない人を神埼駅で乗せ、福岡空港へ向かいました。ウォーキング大会で初めて地震に遭遇しましたが、ツアーのため空港までのバス確保や飛行機便の変更などをやっていただき大助かり。予定より1時間遅れた程度で羽田空港に到着出来ました。当日に帰れなかった人もいたとか。

映画の寅さん、1974年(昭和49年)12月公開の第14作「男はつらいよ 寅次郎子守唄」で唐津、呼子に來ています。さくらの夫 博のけがで大騒ぎのとらやに戻り、後継ぎの話で喧嘩し、また旅に出ます。出て行く時にさくら名義の通帳(7000円あり)を博の治療にと渡す寅さん。旅先の呼子の宿で赤ん坊を連れた妻に逃げられた男にやさしくして、赤ん坊を押し付けられ、背負って柴又へ戻るも寅さんの子と勘違いされ大騒ぎ。赤ちゃんが熱を出し、博のかかった病院へ。寅さん、美人の看護婦京子(十朱幸代)に一目ぼれです。彼女の参加する合唱サークルにさくらと出かけ練習の邪魔をします。サークルリーダーの家に謝りに行き、リーダーが京子に恋していると知り、恋の指南役になります。二人は結ばれ、寂しく旅に出る寅さんです。とらやではタコ社長と取っ組み合いのけんかをする寅さんが旅先や美人の前で見せる優しい姿が印象的です。



1989年(平成元年)12月公開の第42作「男はつらいよ ぼくの伯父さん」で佐賀・吉野ヶ里に來ています。浪人中で勉強に身が入らない満男を心配し、帰って來た寅さんに「悩みを聞き出して欲しい」と頼むさくらです。寅さん、満男から及川泉(後藤久美子)への恋の悩みを聞き出します。泉は高校時代の後輩で離婚した母(名古屋のクラブのママ)と離れて、佐賀の叔父の家にいるとの手紙に、満男はバイクで会いに行きます。そして佐賀の宿で寅さんと相部屋に。恋の手ほどきを受け、吉野ヶ里遺跡でデートします。若者の行動に否定的な泉の叔父(高校教師)への寅さんの捨て台詞「満男は間違っていない」が小気味よいです。満男に「小野小町に100日100夜通いつめ、恋を实らせた深草少将」の味わい深い恋愛論を語る寅さん、見ものです。シリーズ第1作で生まれた満男が恋をするまでに成長し、その台詞が寅さんの口調に似てきているのが面白いです。



美しい泉の叔母（壇ふみ）も登場し、寅さんの心を動かしますが、今回は満男の伯父役に徹し、寅さんの恋はありません。
聖火は福岡県へ引き継がれます。

〔福岡県〕 2020年5月12日～13日

聖火リレーコース 5月12日 大牟田市～福岡市で久留米市も通過します。
11日 築上町～北九州市です。

福岡県は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー6」をご参照ください。
聖火は山口県へ引き継がれます。

〔山口県〕 2020年5月14日～15日

聖火リレーコースは 5月14日 岩国市～山口市、15日 宇部市～萩市で下関市も通過します。

山口県は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー7」をご参照ください。

聖火は島根県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝